

富山大学人文学部同窓会会報

人文

No. 32

2010. 10. 1

富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電 話 (076) 445-6143

F A X (076) 445-6141

E-mail alumni1@hmt.u-toyama.ac.jp

題字 大島文雄先生

「良い加減」の「いい加減」－軍隊を捨てた国、コスタリカの生き方

人文学部教授(国際関係論分野) 竹村 卓



◀国立劇場正面入口：1897年、コーヒー輸出で財をなした農園主たちの納税で完成。演奏会や演劇上演の他、1983年の中立宣言発表など国家的行事にも使用される。門内にみられる丸い石球は、オーパーツと呼ばれ、先住民の手になる。中には1,000年以上前に作られたものもあり、コスタリカのシンボルとなっている。劇場内部は現在耐震工事のため改装中。

今年の総会でご講演いただきます。
(詳細は8ページ参照)



日本の国会にあたる一院制の立法議会議事堂。最高裁判所や社会保障関係機関の立派な建物と比べ、質素でこじんまりとしている。議員定数が57名の少数という理由に加え、国の仕事の中で何が重要か、というコスタリカ人の考え方を反映している。

「人間関係の豊かさ」を考える

人文学部同窓会

会長 松平 義麿 (6回史学)



私たちは豊かな社会や生活など、「豊かさ」を求めて日々の営みが続けていますが、その「豊かさ」は何によって支えられるのでしょうか。

言うまでもなく、まず第一に挙げられるのは「もの・かね」でしょう。人々の最大の関心事であり、個人も社会もそれを求めて努力し続けています。

しかし今日、この「もの・かね」を追及して止まない経済活動は大量生産、大量流通のシステムが巨大化かつグローバル化し、地球環境の危機を招いています。さらに利潤追求至上主義が欲望の肥大化や格差社会化を

生み、人々の心をも蝕んで、人間性の喪失とも言うべき悲惨な事件や社会事象が多発しています。

このような問題を克服し、真の豊かさを確立することが、今の私たちに課せられた大きな課題ではないでしょうか。

私は先日、「葬式は要らない」という本を読む機会がありました。読むと言うより読まされる、と言った方が正しいのですが、我が家の寺(日那寺)の住職から「この本を話題にして檀家の人々と語り合ってみようと思うが」という提案があつたからです。寺の役員なるものを引き請けていたので、私がこの本の内容要約プリントを配布して、話題提供した次第です。

著者は日本の葬式費用は世界一でとても贅沢になっているこ

と、しかし今や、直葬や散骨などが増え、葬式が急速に簡略化に向かつており、さらには無用論にも近づいていると述べています。そして、その原因は地域の共同体と「家」の共同体の役割や力が衰えたことにあると指摘しています。

その話し合いでは、各自が自分にも関わる身近な問題として、多様な感想や数々の意見が続出し、「葬式の意義や役割」「寺院活動の在り方」「家族や地域の在り方」「人の死と生」などについて大いに考えさせられたのです。そしてまたその直後の八月初旬に、東京都の最高齢者とされた一三歳の女性の所在不明が報じられ、その後も全国各地で百歳以上の同様な事例が続々と報道されました。咄嗟に「葬式は要らない」のタイトルが頭に浮かんで、大きなショックでした。葬式は「要らない」と言うよりも、「できない」とか更には「しない」との意図的な犯意までが潜んでいるようで、暗澹たる思いに駆られました。

これら一連のことから、日常

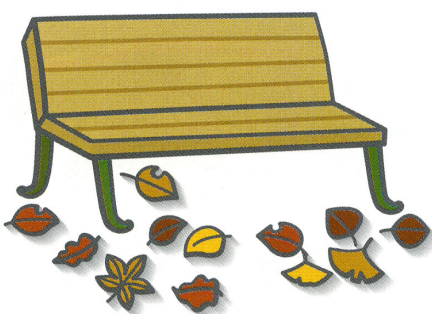
の生活における「人間関係のありよう」についても、つくづく考えさせられました。

さて、ここで冒頭の課題に戻って、「豊かさ」について考えてみたいと思います。「豊かさ」の要素には「もの・かね」は矢張り除外することはできませんが、程々にすることが条件になると思います。そして「心の豊かさ」は絶対に必要です。物質的文明の目覚ましい発展の陰にある精神的文明を進展させ、物と心のバランスのとれた豊かさを構築せねばなりません。

ところで、豊かさの要素として物と心のこの二つの外に、私は敢えてもう一つ「人間関係の豊かさ」を加えたいと思います。物が豊かで便利な生活に浸って、人と人との関わり合いが少なくなり、人間関係が希薄化してきました。さらには利己的、孤立的な考え方や生活態度も広がって来ています。ここに現代社会の病巣が潜んでいると思います。豊かさとは良いものが沢山あることだと考えますか、「豊かな

人間関係」にも質と量の二面があります。温かく親密度の高い人間関係、多様な人々との広い繋がり、このようなよい関係に満ち満ちた「人間関係の豊かさ」が、前述の「地球の病」や「人の心の病」を治癒する特效薬になるものと思います。

私たちの人文同窓会の活動がこの「人間関係の豊かさ」を、質の面でも量の面においても一層促進することとなるよう願って止みません。会員各位のさらなるご理解とご支援をお願い申し上げます。



昭和三十年、蓮町の古い校舎で

浅野 美和子（6回国文）

原稿依頼をいただいた途端、蓮町の旧制高校の校舎に通っていた五十年前のことが、一気に溢れ出してきました。

歌舞伎のセリフを名調子で語ってくださった英文のS先生、

「セイコちゃん・ランコちゃん」からタテヤマトガリネズミまで、明るい講義をされた生物のU先生、厳肅に学の世界を示された史学のT先生。また流暢きまわりなく古文を朗読された国文のN先生は、立派な体格をカーキ色に包んだ軍人風の外見とは正反対に、不思議な両性的美意識をお持ちのように見えました。

また、地方大学の現状を述べられた史学U先生のシニカルな口調から、寒い富山の古い教室がふいに色あせて見えたこともあります。それが嫌だと言うのではなく、冷徹な客観視がありました。

こうした個性的な先生方の講義の中から、私達は確かに何かを吸収していました。教授の名を仲間内では「〇〇さん」と呼

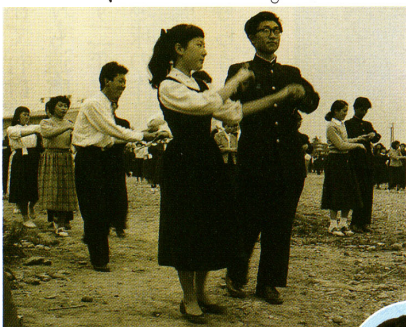
ぶようになった、生意気盛りの年頃です。

「もはや戦後ではない」と言われながら、まだ貧しくもあり、社会や家庭には古い考え方が厳存していた昭和三十年代初頭。

しかしどこからか発信されてくる強烈な音、色、言葉の群れが、日本の隅々まで若者の気分を鼓舞し高ぶらせていたように思います。

ジャズ、マインボ、ジルバ、ミュージカル映画、太陽族にトリスバー。

まだ学園闘争の時代ではありませんでしたが、その下地を作るかのように、「若者よ」や「ヌフグリの歌」などで反戦的な歌声運動は都会の大学から地方へと、静かに浸透してきていました。



▲昭和30年頃、城址公園の富大前夜祭



平成二十年
著者▼

大学祭の前夜祭では、富山城址公園にフォークダンスの大きな輪ができました。戦前派の人達から見れば、羨ましい程に自由な戦後の若者達と見えたことでしょう。

中庭の小さな石段で、心の通じ合う友と語るとき、古い木造校舎は夢想を育てる揺籠のようでもありました。

しかし「青春の光と影」と言うように、明るいことばかりではありません。多くもない文学

科の学生の中で、二人が命を落としました。呉羽山下の北陸線に身を投じたNさんは、どんな悩みに負けてしまったのか。恋人の下宿

から蓮町の寮へ帰る夜、岩瀬街道でトラックに轢かれたS君は、そんな夢中な恋をしなければ事故に遭わなかったかもしれない。二人の死は、青春の只中にあったからこそ、という気がします。「ドッペルさん」こと独文の平

田先生がおっしゃった。「シュトルム・ウンター・ドラング」（疾風怒涛の時代）が思い出されます。旧式な考え方との軋轢は私の家にもあり、大学二年は悩みの連続でした。せっかく入った大学を、父が中退させようとしたのです。困り果てた私は、史学の高瀬先生に相談しました。高岡へ帰られる北陸線の車窓から、先生はおっしゃった。「窮すれば通ずですよ」。

私は遂方に暮れるばかりです。ところが、それが実際に通じてしまったのです。父が無理に決めた就職先へ行って「あと二年、どうしても続けたいのです。採用したことにして大学を続けさせてください」とお願いしました。一種の奇策だったと思います。富山観光協会の金山さんという方が、父に対してもそれで通じてくださったって、私は卒業しました。今、こんな風に見知らぬ若者を助けてくださる方が

あるものでしょうか…。このように明暗とりまぜの学生時代、その最後を優しく締めくくってくれたのは、国文科の旅行だったと思います。春休みに、二十人ばかりの学生が、大島文雄先生と共に京都

奈良を巡りました。先生の滋味溢れる温顔が思い出されます。「女の子はコワイです」とおっしゃっていたことも。包むように穏やかだった先生の目には、アプレゲール（戦後派）の女の子がさぞ危なっかしく映っていたことでしょう。

大徳寺の宿泊から桂離宮拝観の予約まで、旅行の手配は手間のかかることだったと思います。でも先生は、私達に歴史と美の形をじかに見せてくださるために、毎年旅行を計画してくださった。

唐招提寺までは端正なたたずまいに何かしらの精神性を感じ、また広隆寺弥勒の無垢な姿に打たれて、見入り続けました。雪解け間もない北陸の三月から、アシビの花咲き乱れる古都の春へ。若い時代だったからこそ、旅のすべてが心に浸み込んだと思えます。その季節に、あの旅をさずけてくださった大島先生。初めてのハイヒールをはいて旅行に来てしまった女子学生に、心配そうなお顔を声をかけてくださったことを思い出します。

「浅野さん、足元は大丈夫ですか？」と。（東京都在住）

独りよがりにならないように

佐藤 紀子 (37回文化構造)

大学を卒業したのは平成元年。バブル景気の真只中でした。

「卒業」の意味がよくわからなまま心太方式で押し出され、社会に出たとき、私は証券会社の営業職に就いていました。実態のないモノを売るのはどうも性に合わない会社を辞め、雑誌などの制作会社に入り、今はフリーランスで取材をしたり、原稿を書く仕事をしています。

会社を辞めて、「ああ、お気楽、極楽」などと思ったのは最初のうちだけ。一人はもちろん気楽ですが、だからこそ独りよがりになってしまふ怖さといったら。そして、このまま誰とも繋がりが持てないのではという不安もあります。首をすくめながら周りを見渡すと、そんな思いをしている人が少なからずいることに気がきました。そこで気の合った四人でグループ(『辻行燈』)を作り、私たちが自身を含め、いろいろな人が

互いに繋がれる場を持つ活動を始めました。それが、七年前。積極的に出て行けばよいのだけれど、どうも遠慮しがちな私たちは、まず二年に一度、四人それぞれの趣味の作品を展示するグループ展を開催し、多くの人に集ってもらうことから始めました。そして次に、三ヶ月に



(前列右が筆者)

一度くらいの割合でサロンを開くようになったのです。このサロンは、お楽しみ性の高い「陶芸体験」や「屋形船で落語を聞く会」などもあれば、フリーランスには切実な「青色申告講座」もあります。先日は、「自分できちんと発信するためウェブサイト作り」という講

座を開いたばかり。私たち自身が知りたいことや試してみたいことを中心にテーマを探り、講師をお願いしています。

参加者は少なければ五〜六人多くても三十人ほどの小さな会ですが、「独りよがり」感は、この活動を始めたことで少し緩和されたような気がしています。サロンを継続的に開催するには、ミーティングが欠かせないからです。相手の意見を聞き、主張するべきところは主張し、譲るべきところは譲ることになります。なんだ、そんな当たり前のことをとられるでしょうが、一人で仕事をしていると忘れやすいので、要注意なのです。参加してくださる方との話も貴重です。仕事の間ではないから、お互いに比較的思ったことが言えるし、聞けるのです。細く地味な活動ではありますが、七年継続することで周囲にグループ名が浸透し始めました。また、サロンは十四回を数え、実績を積み重ねることで広くお知らせもしやすくなりました。これからもゆつくりとした歩みでも継続し、今後何か形になればと思っています。

(東京都在住)



研究室 ロシア言語 文化コース

准教授 武田 昭文

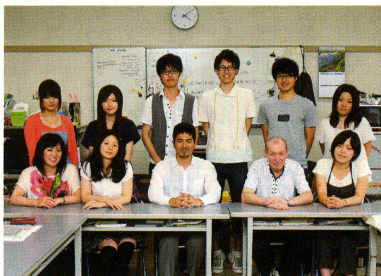
卒業生の皆さまには、お元気で活躍のことと拝申し上げます。本研究室は、地方大学でロシア語・ロシア文化を専門的に学べる、全国的にも珍しい研究室として、一九七七年に人文学部創設とともに開設されて以来、今年で三十三年目を迎えました。卒業生の進路は、公務員から一般企業、中学・高校の教員など多岐にわたります。近年では、富山県警察、在外公館の派遣員、また東京大学や早稲田大学など他大学を含む大学院への進学など、地域と世界に卒業生の活動の場がいっそう広がってきたように感じられます。

現在のロシア言語文化研究室の教員は、中沢敦夫教授(ロシア中世文学・文化史)、詩人のカザケヴィチ教授(ロシア文学全般)、そして私(一九・二〇世紀ロシア文学)の三名です。ロシア語の高度な運用能力を養い、広い文化的視野と専門的知識を身につけ、地域社会の中でも海外に出て、国際的に活躍できる人材の育成をめざすという教育姿勢は、今も変わらずに受け継がれています。中沢教授と私が講じる、ロシア昔話から現代の小説や生活文化にいたる講読や演習はもとより、学生は、カザケヴィチ教授がすべてロシア語で行う文化論や特殊講義を受講

することにより、まるで内地留学のような学習環境を享受しています。関西ロシア語コンクールをはじめとする各種催しでは、本研究室の学生が毎年のように上位入賞し、また県内のロシア語・ロシア文化関連の行事には通訳として積極的に参加しています。私たちはこのような環境を整えられた先任の先生方に感謝し、現在の教育体制をしっかりと守っていきたいと考えております。

学術協定のノヴォシビルスク大学人文学部との学生交換も盛んで、毎年約二名の学生が留学し、ほぼ同数のロシア人学生が留学してきます。モスクワやペテルブルグに私費留学する学生も多く、三、四年生の半数は留学経験者というのが当たり前になっています。こうした既に伝統のようになった通称露文のスタイルが、学生の人間形成にどのように結実していくか大変楽しみです。

卒業生の皆さま、どうか私たちが温かく見守っててください。そしてもし学生時代がふと懐かしくなったら、いつでもお顔を見せてください、歓迎します。



心に残る大切な言葉

関 美 夏 (43回西洋史)

私が大学を卒業して早いもので十五年が過ぎようとしています。今までを振り返るとたくさんの人との出会いや忘れられない言葉があります。その中で、特に印象に残っているエピソードを書いてみたいと思います。

私は現在、長野県松本市に住み、三人の子供を育てる平凡な主婦です。ただ一つ平凡でないのは、長男には自閉症という障害があり、次男と長女は双子。普通よりかなり大変な子育てをしています。手のかかる子供たちを持って初めて気づいたことは、私がいかにハンディを持つ人に無関心であったかということです。そしてたくさんの方の手助けを受けることで、人のやさしさや温かさ、人とのつながりのありがたさを痛感しています。



ある時、できることが増えてこない長男のことを療育の先生に相談したことがあります。その時言われた言葉が「この子は将来必ず親の手本から離れてい

く子だ、と心の底から思ってたなさい。」でした。その言葉にかなり衝撃を受けました。私自身心がどこかで「障害があるからでなくとも仕方ない。」と思っていたからです。「この子は将来必ず親の手本から離れていく」と信じて育てること。今も子育てに悩む時、私を支えてくれる言葉です。

しされた言葉が「卒論という長い時間をかけて勉強するものだから、自分の本当に好きなことを選びなさい。」でした。そして当時オーケストラのサークルに入っていた私に、ロシアの音楽史と思想史との関係について書くことを勧めて下さいました。

チャイコフスキーなどロシアの音楽家の演奏もしたことがあり、好んで聴いていたクラシック音楽の背景となる歴史や思想について学ぶことはとても楽しく、充実した時間になりました。今でも「学ぶことは楽しいこと」として深く心に刻まれています。

現在は子供たちの手が少しずつ離れてきたので、再就職をめざして以前していた経理の仕事を探るため、簿記の一級をめざして勉強しています。家事・育児の合間の勉強は大変ですが、自分で決めたことなので苦にはなりません。何より「新しいことを学ぶのは楽しいこと」という思いがいつもあります。

短時間でも再び社会に出て働くこと、そして障害のある人とその家族を助けるような活動をする、それが今の私のささやかな目標です。

(長野県松本市在住)

研究室から

社会文化コース

准教授 伊藤智樹

卒業生の皆さま、お元気ですか。社会学研究室は、現在では、社会文化コース(社会学教育研究分野)という名前となって、活動中です。教員は、佐藤裕と、(2001年4月から)伊藤智樹の二人で、変わりなくやっております。名前が変わり、カリキュラムが変わったとはいえ、根幹の部分は以前と変わりません。演習室も7階の同じ場所です。

社会学研究室での学生の学び方の特徴は、現代社会の中に自らテーマを見つけ、調査をプランニングして実行し、その結果を報告書にまとめる、という徹底した自主性・自律性にあります。もちろんテーマを選ぶ際には、教員とのディスカッションで、それをよく吟味します。「そのテーマのどこに不思議さがあるのか?」「具体的にどんな方法で調査できるだろうか?」こんなことを始終問われるわけです。学生は3年次に同級生や後輩を率いてグループで調査実習を行い、その経験を活かして、それぞれ卒業研究に取り組むこととなります。また、学生も一研究者であるという考えのもと、卒業論文のインターネットでの公開(ただし調査協力者の了解が得られたものに限る)にも取り組んでいます。

こうした学びを通して、学生たちは、社会に対する既存の紋切り型の見方にとらわれず、自分の頭で考え、自ら確かめるための調査を計画・実行・分析する力を身に付けていきます。このような能力が企業等の職場で活かされる仕方は、必ずしも目に見えるものではないかもしれませんが、たとえばうであったとしても、一個の社会的存在にとって大切な能力ではないかと私たちは思っています。

これを書いている2010年の時点では各学年とも12名、うち男性は各学年に1名ずつと、賑やかで女性多数の時期を迎えています。そんな中、卒業生の皆さんが、ときどき演習室をふらっと訪ねてきてくれたり、同窓生のちよつとした集まりについて声をかけてくれたり、あるいは葉書で近況を知らせてくれたりするの、とても感慨深く、嬉しく思います。ですから、ふと思いついたときでかまいませんから、ときどき近況を知らせてください。



学位授与式と卒業祝賀会

本年度、全学の学位記授与式 友人同士のカメラ撮影などの中は、三月二十四日、富山市総合体育館で行われました。その後、と会場を華やかにしていました。名鉄トヤマホテル彩雲の間で人 終宴近く、松平会長が「同窓



文学部並びに大学院人文科学研究科の学位記授与式があり、人文学部一九九名、大学院生十一名、計一一〇名に対し、山口学部長の式辞の後、松平同窓会長が祝辞を述べました。

続いて、

同窓会主催の卒業祝賀

会が催され、松平会長の音頭で会場は一気に盛り上がり、歓喜に満ち溢れました。思い出多い学生生活や、恩師との語らい、

らは会長のほか、中川、山藤両副会長と事務局の畠山さんが参加しました。

同窓会か

会のために理事として活躍したい人を」と呼びかけたところ、間髪を入れずに二名の手が上がり、今年もまた昨年引き続いて気鋭の若者が我が同窓会に若い血を注入してくれるものと感激しました。

同窓生の一員となつて

～「スポレクとやま」にがんばる日々～

石坂 亮太 (58回西洋史)



れる日々が続いております。友人たちも同様に全国各地で奮闘する姿を想像しますと、富山大学生として喜ばしいかぎりです。

さて、私事で恐縮ですが、仕事では第23回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレクとやま2010」という大会の企画・運営をしています。全国スポーツ・レクリエーション祭とは、市民のス

新涼の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。早いもので、私が富山大学を卒業して半年が経とうとしており、学生の頃とは違い、仕事に追われる日々が続いております。

最後にありますが、今年から富山大学人文学部同窓会の役員をさせていただくことになりました。社会に出たばかりの新人で物足りないとは思いますが、フレッシュさを生かして何らかの手伝いができればと感じております。皆様、今後ともよろしく願っています。

スポーツ・レクリエーションへの参加の機会づくりや、健康づくり、運動の習慣化を推進することを目的とする全国規模の生涯スポーツの祭典です。参加者は全国各地から、隣国の韓国からも計3万人にも及び、これだけの人数が集まる祭典はめったにないでしょう。

今年10月16日から19日までこの富山県で全29種目開催されます。興味・関心がありましたら、会場に足を運んでいただきますと、この祭典に携わっている者として嬉しいものです。詳細については富山県のホームページをご覧ください。祭典では、数々の興奮・感動する選手の姿が見ることができでしょう。

人文学部大学院人文科学研究科 韓国慶北大学校人文学部 学術交流協定を締結

人文学部及び大学院人文科学研究科は、二〇一〇年七月、大韓民国大邱市において慶北大学校人文学部と学術交流協定を締結しました。

慶北大学校は、大邱師範学校、大邱医科大学、大邱農学校、大邱農学校を母体とし、一九八二年国立慶北大学校として改編・統合された韓国中部の中核的な国立大学です。人文学部は、一九五一年の改編・統合時に文理科大学として設置され、一九八二年に人文大学に改編された大学です。

この学術交流協定の締結により、今後教員・学生の交流を持続的に行ない、相互の大学の特色を生かした教育・研究をより深化させることを目指します。

特に朝鮮関連分野について学ぶ学生に、韓国の国立大学の専門課程に留学する機会を提供することによって、人文学部の特色の一つである朝鮮関連分野の専門的教育が充実することが期待されます。

ホームページリニューアル

本年三月に
人文学部ホー
ムページをリ
ニューアルし
ました。「トッ
プページ」「同
窓会につい
て」「会報人
文」「事務局か
らのお知らせ
」だけのシ
ンプルな作り
ですが、立山
連峰と蓮町校
舎の写真を配
したトップペ
ージの美しい
デザインは好
評です。

「同窓会について」では、松平
会長の挨拶の他、第一回卒業生
の窪元会長より同窓会発足の経
緯やその後の歩みなどをご寄稿
いただきました。役員名簿、同窓
会の概要、会則も載せています。
「会報人文」では二十四号(二
〇〇四年)からの会報をご覧い
ただくことができます。

トピックス欄を設けましたの
で、学科の同窓会の開催、ある
いは本の出版など会員の皆様の
近況をお知らせください。

会員名簿発行

会員名簿二〇一〇年版を三月に発行しました。会員の
皆様には四千円で頒布します。事務局までお申し込みく
ださい。

富山大学人文学部同窓会

人文

掲載:大島文雄

同窓会について
会報「人文」
事務局からのお知らせ

旧蓮町校舎

TOPICS

2010年08月23日(月)
田中 聡さん(文庫33回・専攻科13回人文)の新作「東京花もうで寺社めぐり」をご紹介します。

2010年04月15日(木)
平成21年度人文学部卒業祝賀会が開催されました。

ヘルン文庫について

富山大学人文学部の前身は富山大学文理学部
で、その源泉は旧制富山高等学校にあります。
大正13(1924)年、同校の開学に当たって寄付さ
れたヘルン文庫は、現在富山大学附属図書館の
貴重なコレクションとなっています。

ヘルン文庫 ちりめん本

Copyright(C)2010 富山大学人文学部同窓会 All rights reserved.

<http://www3.u-toyama.ac.jp/alumni1/index.html>

富山大学同窓会連合会

2010 総会開かれる

去る七月十五日(木)十八時より
名鉄トヤマホテルにて各学部か
ら百二十名の参加を得て、本年
度の総会
が開催さ
れた。

西頭学
長、北野
連合会長
の挨拶の
後、議事
に入り、
事業報告
、会計決
算報告、
ホームカ
ミング・
デーの開
催等の審
議がなさ
れた。



マイクの前は松平会長

記念講
演は松長
賢氏(工
学19回卒、北陸電力株式会社顧問 8) 山藤登(国8) 中川禎子
問)が、「原子力リネッサンスを (国9) 各氏が参加。
迎えるにあたって」の演題で、

その後
懇親会に
移り、午
後九時閉
会となつ
た。

なお人
文同窓会
から高畑
史子(英
3) 藤田
正時(史
4) 松平
義磨(史
6) 永井
宗聖(史
6) 栗三
直隆(国

平成22年度人文学部 総会へのお誘い

拝啓 今年の稀に見る猛暑の名残が未だに続いておりますが、皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて本年度も下記の要領で総会・講演並びに懇親会を開催いたします。

多数のご参加をお待ちしております。

敬白

人文学部同窓会長 松平 義磨

日時 11月13日(土) 午後1時30分

場所 ボルファートとやま

(富山市奥田新町81 TEL076-431-1113)

講演

講師 竹村 卓 教授

演題 「良い加減」の「いい加減」

－軍隊を捨てた国、

コスタリカの生き方

南北アメリカ大陸をへその緒のようにつないでいる中米地峡、その中でパナマの北隣に位置するコスタリカは「軍隊を捨てた国」として知られている。1948年に当時の政府が軍隊の廃止を宣言し、軍備の放棄を明文化した現行憲法第12条は、翌49年の成立以来、人間なら還暦を過ぎた今日まで遵守されて来た。その間コスタリカは1983年に「永世・非武装・積極的」中立を宣言して、平和の道を歩んで来ている。今ではエコツーリズム発祥の地としても知られるようになった。

だからと言ってコスタリカの人々が、四六時中肩ひじ張って生きている訳ではない。反対に自ら「Pura Vida (プーラビーダ)」と呼ぶ、一見「いい加減」な生き方を好んで送っているのだ。

富山とも実はご縁の深いコスタリカの、「良い加減」ないいい加減さについて、今年2010年9月の現地調査も踏まえたお話をさせて頂く。

懇親会：午後4時

会費：5,000円(当日受付にてお納め下さい)

同封のはがき(現況通知・総会・懇親会出欠の回答)を10月29日(金)迄に是非ご返送願います。

第三回ホームカミング・デー

開催のお知らせ

今年、第三回を迎えるホームカミング・デーは、高岡キャンパスで開催することになりました。

深めようと企画されました。

開催場所

富山大学高岡キャンパス

当日は、大学の施設を開放して、見学予定コースの主要施設と設備を案内してもらいうことになっておりますので、是非ご参加下さい。

開催日時

記

開催日時

平成22年10月30日(土)

13時30分～16時30分

散会

懇談会

「創己祭」の見学

建築(他)

見学(うるし・デザイン・ビデオ)

学部紹介

13時受付

日程

一 報 告

謹んでご冥福をお祈り致します

富永 定根(史学8) 平成20年12月7日
上原 千里(史学13) 平成21年9月27日
政司 忍(史学8) 平成22年2月1日
田中秀樹(哲29) 平成18年4月21日
大谷重彦(教員) 平成22年7月25日

人文学部教官異動

着任

○鈴木晃志郎(人文地理学)

准教授

新刊案内

人文学部縁の方々の新刊を紹介します。

羊飼いの民俗誌

渡辺和之(文化人類40回卒)／著 明石書店 2009年2月刊

通読 方丈記

手嶋政男(名誉教授)／著 笠間書院 2009年10月刊

美しき天然 嘉仁皇太子の修学旅行

田中聡(文構33回・専攻科13回卒)／著 バジリコ 2009年12月刊

水洗トイレは古代にもあった トイレ考古学入門

黒崎直(教官)／著 吉川弘文館 2009年12月刊

東京花もうで寺社めぐり(祥伝社黄金文庫)

田中聡(文構33回・専攻科13回卒)／著 祥伝社 2010年6月刊

年会費の報告

本年度の年会費の状況をお知らせいたします。

平成21年6月1日～平成22年6月30日、330名(終身会費12名、年会費318名)の方々より437,000円の年会費を納入していただきました。

ご支援、ご協力、厚く御礼申し上げます。 人文学部同窓会事務局

山藤 登
田中 史子
佐野 和美

●編集委員●

成瀬裕美子
志麻 愛子